

佐世保高専 JABEE 関連企業・大学院アンケート
(本校の教育プログラムに対するアンケート)

1 調査の目的

本校の技術者教育プログラム『複合型もの創り工学』における学習・教育目標が、社会で専攻科修了生に要求する能力に適合しているかを評価していただき、その結果を本プログラムの教育改善に資する。

2 調査対象

- ・ 企業 82 名 (61 社)

令和 3 年 3 月から令和 7 年 3 月専攻科修了生が就職した企業

- ・ 大学院 35 名 (16 大学院)

令和 3 年 3 月から令和 7 年 3 月専攻科修了生が進学した大学院

3 調査方法及び調査時期

(1) 調査方法 QR コード郵送、Google Forms による回答

(2) 調査期間 (企業) 令和 8 年 4 月 1 日 (水) ～令和 8 年 4 月 30 日 (木)

(大学院) 令和 8 年 4 月 1 日 (水) ～令和 8 年 4 月 30 日 (木)

4 回答数

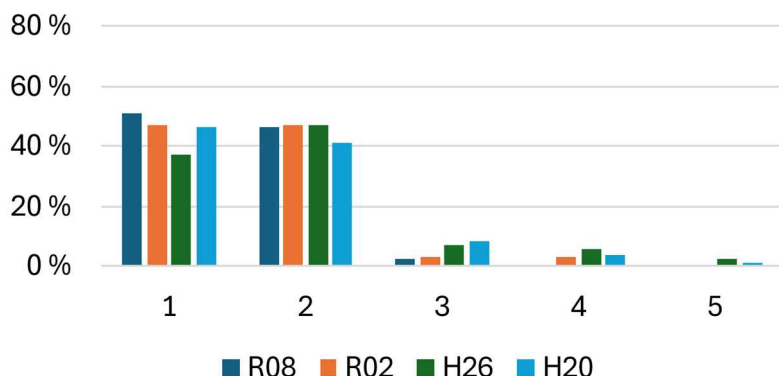
企業 : 27 件

大学院 : 18 件

質問フォーム

本校の教育プログラム『複合型もの創り工学』における学習・教育到達目標についてお尋ねいたします。
付表「学習・教育到達目標とその評価方法および評価基準」を参考に、専攻科修了生に要求する能力について、目標ごとにご回答下さい。

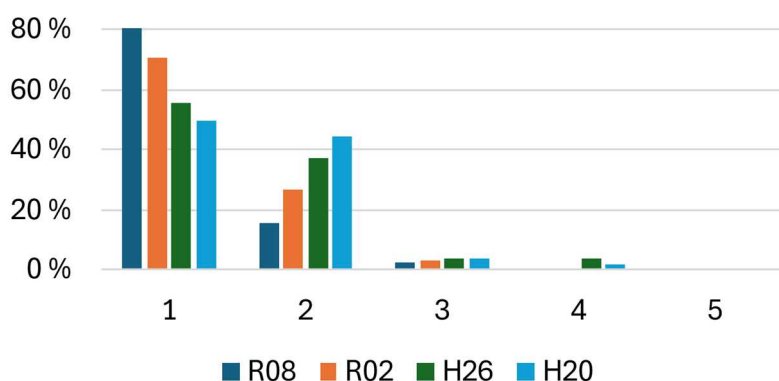
A-1. 数学（微分積分学，線形代数，微分方程式，確率・統計など）と自然科学（物理，化学など）の基礎知識を身につけて，工学的諸問題の解決に応用できること。



数学・自然科学の基礎能力については、「ぜひ必要」および「ある程度必要」の割合が大半を占めており、工学的問題解決の基盤として強く求められている。「どちらとも言えない」は一部にとどまり、「ほとんど必要ない」は見られない。このことから、技術者教育の基礎として不可欠な能力であると評価される。

1：ぜひ必要 2：ある程度は必要 3：どちらとも言えない 4：ほとんど必要ない 5：必要ない

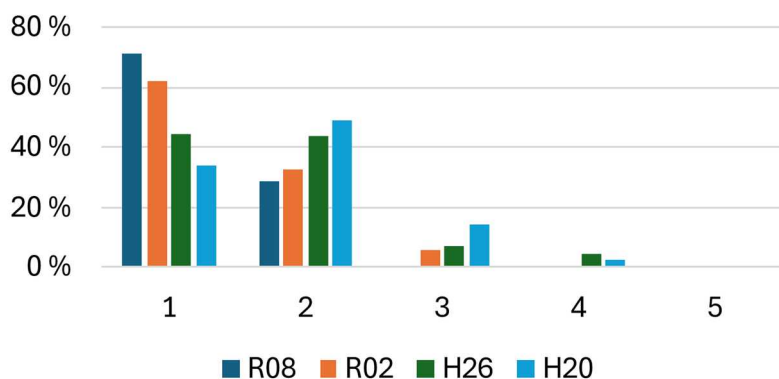
A-2. 情報技術の基礎知識を身につけて，情報収集，実験データの解析・評価のツールとしてコンピュータを活用できること。



情報技術の活用能力については、「ぜひ必要」とする割合が比較的高く、情報を活用する能力の重要性が強く認識されている。「ある程度必要」を含めると大半を占めており、否定的な評価はほとんど見られない。このことから、現代の技術者において必須に近い能力であると評価される。

1：ぜひ必要 2：ある程度は必要 3：どちらとも言えない 4：ほとんど必要ない 5：必要ない

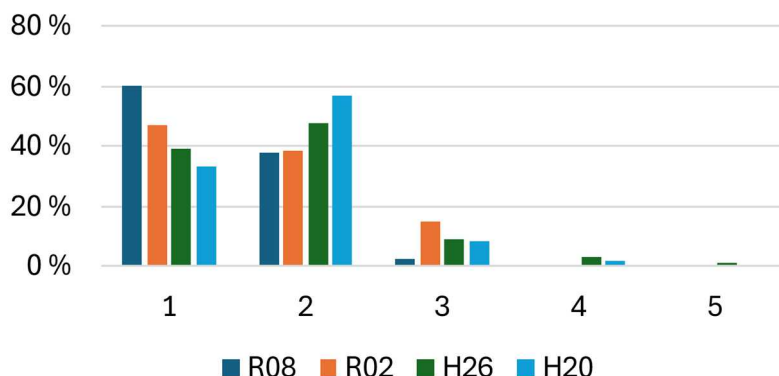
A-3. 基礎工学の知識を身につけて，複合化したもの創りの実務における工学的諸問題の解決に応用できること。



基礎工学の知識については、「ぜひ必要」および「ある程度必要」の割合が大半であり、実務における問題解決に不可欠な能力であると認識されている。否定的な評価はほとんど見られない。このことから、基礎工学は実務適応のための重要な能力であると評価される。

1：ぜひ必要 2：ある程度は必要 3：どちらとも言えない 4：ほとんど必要ない 5：必要ない

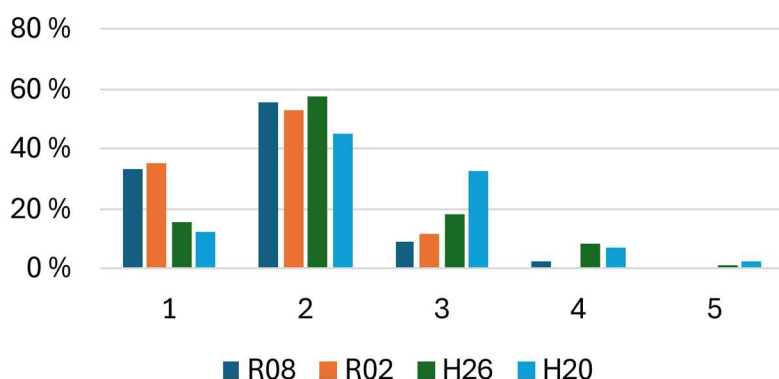
A-4. それぞれの専門分野における”もの創り専門工学”の知識を身につけて、工学的諸問題の解決に応用できること。



専門工学の能力については、「ぜひ必要」が約6割を占めており、強く必要とされている能力であると認識されている。また、「ある程度必要」を含めると大半を占めており、専門知識の重要性は広く共有されている。技術者として重要な基盤能力であり、強く求められる能力の一つであると評価される。

1：ぜひ必要 2：ある程度は必要 3：どちらとも言えない 4：ほとんど必要ない 5：必要ない

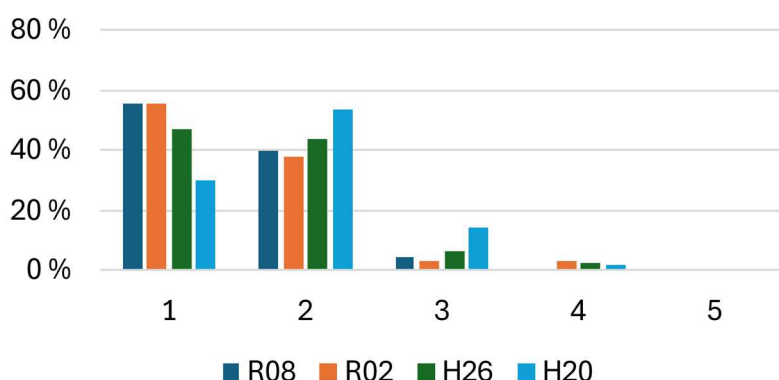
B-1. 他の国の歴史的・文化的背景や国際問題に関する基礎知識を身につけて、グローバルな視点でものごとを考えることができる。



グローバルな視点については、「ある程度必要」の割合を中心に「ぜひ必要」も一定程度見られ、全体として必要性は広く認識されている。「どちらとも言えない」および否定的評価は少ない。

1：ぜひ必要 2：ある程度は必要 3：どちらとも言えない 4：ほとんど必要ない 5：必要ない

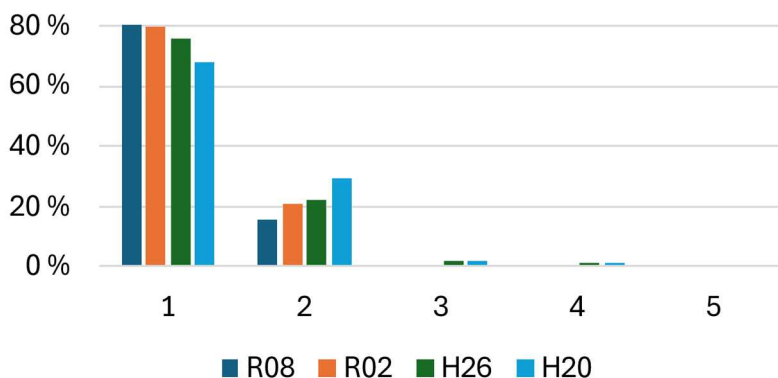
B-2. 技術が自然や社会に与える影響・効果を理解して、技術者としての責任を自覚できる。



技術者倫理については、「ぜひ必要」および「ある程度必要」が大半を占め、安定して高い必要性が示されている。否定的な評価はほとんど見られない。技術者として最低限備えるべき基本能力であると評価される。

1：ぜひ必要 2：ある程度は必要 3：どちらとも言えない 4：ほとんど必要ない 5：必要ない

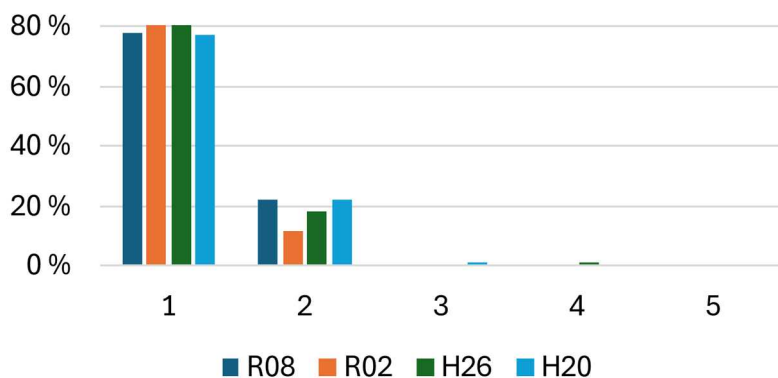
C-1. 技術的な内容を日本語により文章や口頭で論理的に説明できる。



日本語による説明能力については、「ぜひ必要」とする割合が約8割を占めており、極めて高い必要性が認識されている。また、「ある程度必要」を含めるとほぼ全体を占めており、否定的な評価はほとんど見られない。技術者として必須の能力であり、実務において中核的な役割を果たす能力であると評価される。

1：ぜひ必要 2：ある程度は必要 3：どちらとも言えない 4：ほとんど必要ない 5：必要ない

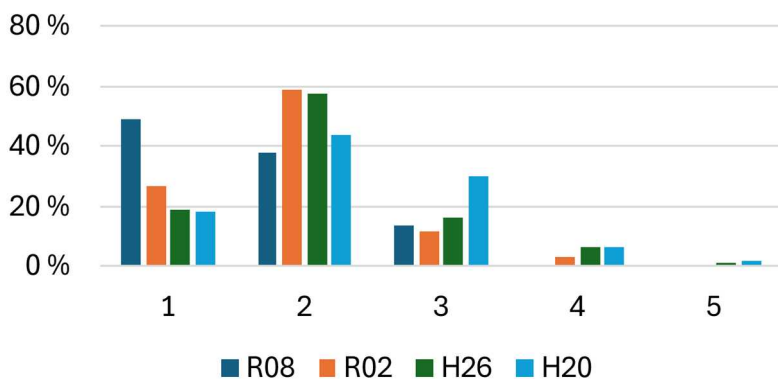
C-2. 相手の質問や意見を聞いて日本語で適切に答えることができる。



日本語による応答能力についても、「ぜひ必要」とする割合が大半を占めており、極めて高い必要性が認識されている。また、「ある程度必要」を含めるとほぼ全体を占めており、否定的な評価はほとんど見られない。技術者にとって必須の能力であり、実務における対話および意思疎通を支える中核的能力である。

1：ぜひ必要 2：ある程度は必要 3：どちらとも言えない 4：ほとんど必要ない 5：必要ない

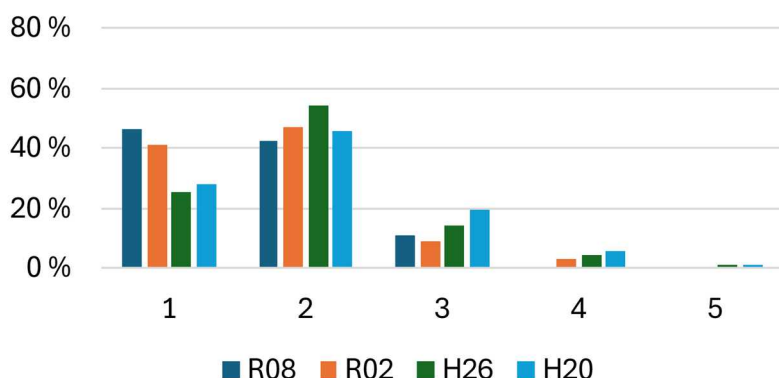
C-3. 英語による基礎的なコミュニケーションができる。



英語によるコミュニケーション能力については、「ある程度必要」を中心とした分布であり、C-1,2と比較すると必要性は相対的に低い。一方で、「ぜひ必要」とする割合は一定程度増加しており、必要性の高まりが見られる。

1：ぜひ必要 2：ある程度は必要 3：どちらとも言えない 4：ほとんど必要ない 5：必要ない

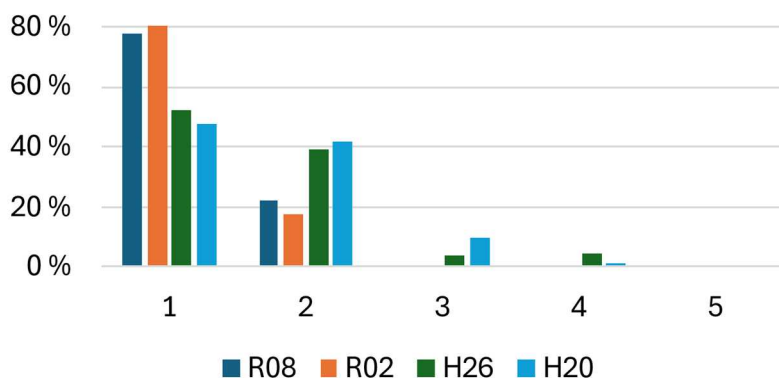
C-4. 基礎的な技術英語の文章を読み書きできること。



技術英語の読解・記述能力については、「ある程度必要」を中心とした分布であり、一定の必要性は認識されている。一方で、「ぜひ必要」とする割合は C-3 と比較して高くはなく、必要性は限定的である。ただし、必要性は増加の傾向にある。

1：ぜひ必要 2：ある程度は必要 3：どちらとも言えない 4：ほとんど必要ない 5：必要ない

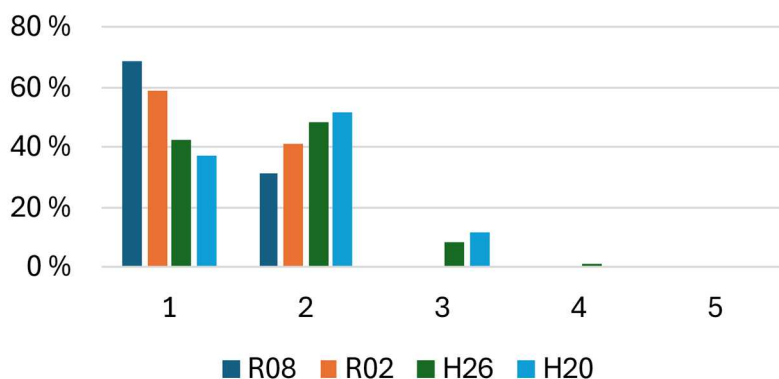
D-1. 自分で具体的な計画や手順を決めて基礎的な実験を実施し、得られた結果を正しく評価・解析して考察し、論理的に説明できること。



実験計画および解析能力については、「ぜひ必要」の割合が非常に高く、実務上極めて重要な能力と認識されている。否定的評価はほとんど見られない。技術者に必須の能力であると評価される。

1：ぜひ必要 2：ある程度は必要 3：どちらとも言えない 4：ほとんど必要ない 5：必要ない

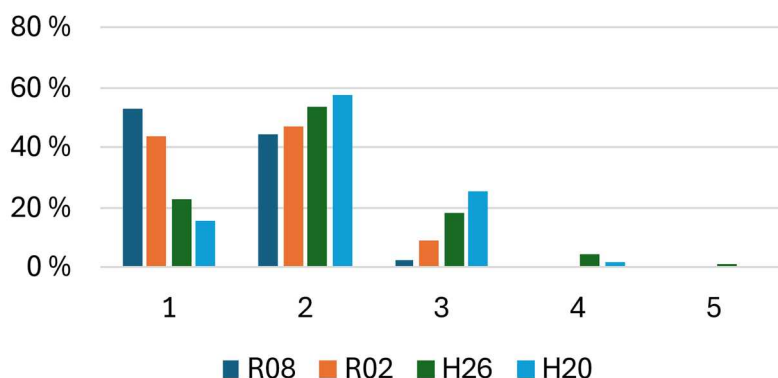
D-2. いくつかの専門分野の知識や利用可能な情報・技術・手段を駆使するとともに創造性を発揮して、調査・解析をおこない、解決策を組み立てて実行し、課題を解決できること。



問題解決能力についても、「ぜひ必要」が大半を占めており、最も重要な能力の一つと位置付けられている。「ある程度必要」を含めるとほぼ全体を占める。中核的能力として極めて重要であると評価される。

1：ぜひ必要 2：ある程度は必要 3：どちらとも言えない 4：ほとんど必要ない 5：必要ない

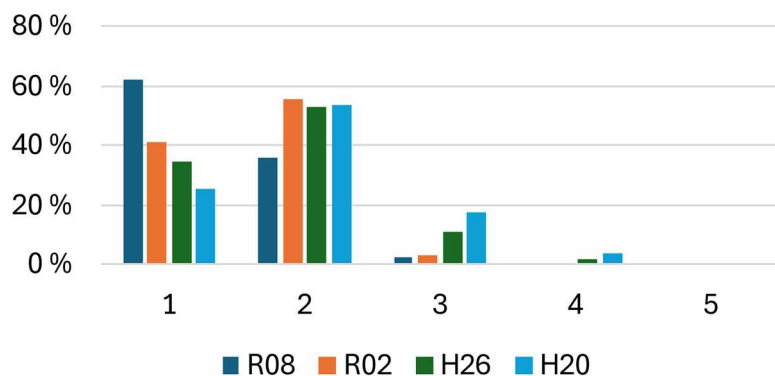
D-3. 社会の要求する課題を解決するにあたって、その内容を分析して、計画や方策を複眼的にデザインできる。



設計能力については、「ぜひ必要」および「ある程度必要」が中心であり、実務において重要と認識されている。その重要性は年々増している。

1：ぜひ必要 2：ある程度は必要 3：どちらとも言えない 4：ほとんど必要ない 5：必要ない

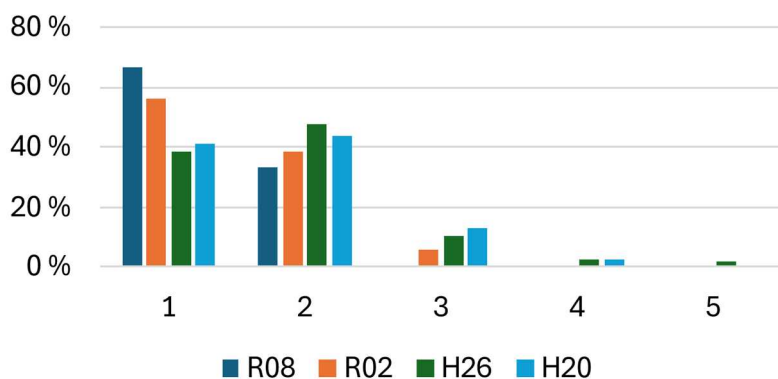
D-4. 実験、実習、研究、インターンシップなどを通して実践的能力を身につけ、技術者が経験する実務上の問題や課題を理解して適切な対応ができる。



実務対応能力については、「ぜひ必要」の割合が高く、実務において重要な能力であると認識されている。また、「ある程度必要」を含めると大半を占めており、否定的な評価は見られない。実践的技術者に求められる重要な能力の一つであると評価される。

1：ぜひ必要 2：ある程度は必要 3：どちらとも言えない 4：ほとんど必要ない 5：必要ない

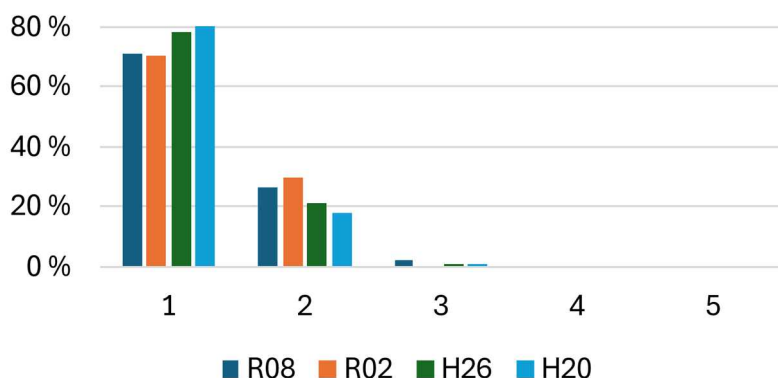
E-1. 社会の要請に迅速に対応し、科学技術の進展を先導するため、自主的・継続的に学習できる。



継続学習能力については、「ぜひ必要」とする割合が高く、強く必要とされている能力であると認識されている。また、「ある程度必要」を含めるとほぼ全体を占めており、否定的な評価はほとんど見られない。技術者として長期的に成長し続けるために不可欠な基盤能力の一つであると評価される。

1：ぜひ必要 2：ある程度は必要 3：どちらとも言えない 4：ほとんど必要ない 5：必要ない

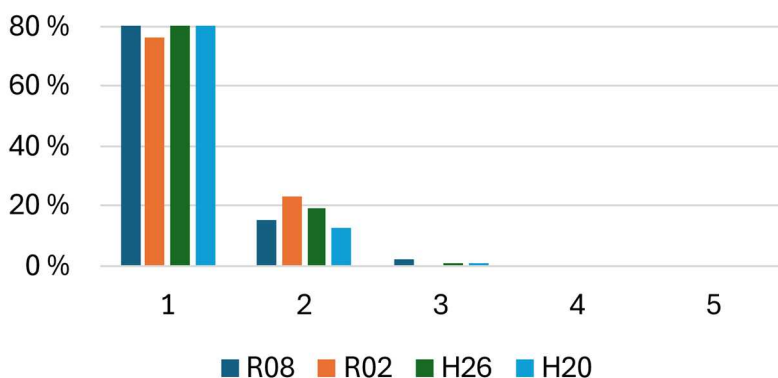
E-2. 要求された課題に対して、自立して、あるいは他の人と協力しながら計画的に作業を進め、期限内に終わらせることができる。



協働能力については、「ぜひ必要」および「ある程度必要」の割合が大半を占めており、強く必要とされている能力であると認識されている。否定的な評価はほとんど見られない。実務において不可欠な能力であり、チームで課題を遂行するために必要な基盤的かつ重要な能力であると評価される。

1：ぜひ必要 2：ある程度は必要 3：どちらとも言えない 4：ほとんど必要ない 5：必要ない

E-3. 健全な心身を持ち、学内外（あるいは社内外）の人々と協調して行動できる



協調性については、「ぜひ必要」とする割合が非常に高く、「ある程度必要」を含めるとほぼ全体を占めている。「どちらとも言えない」および否定的な評価はほとんど見られない。技術者としての実務を支える最も基本的な能力の一つであり、極めて重要な基盤能力であると評価される。

1：ぜひ必要 2：ある程度は必要 3：どちらとも言えない 4：ほとんど必要ない 5：必要ない

企業および大学院による評価では、すべての到達目標において「ある程度必要」以上が大半を占めており、本プログラムの到達目標は社会的要求と整合していると評価される。

特に、日本語による説明・応答能力（C-1, C-2）および協調性・協働能力（E-3, E-2）については、「ぜひ必要」の割合が高く、技術者としての実務遂行に不可欠な基盤能力として最も強く求められている。また、実践的問題解決能力（D 群）および継続学習能力（E-1）についても高い必要性が示されており、実務を支える中核能力として重要である。

一方で、英語能力（C-3, C-4）の必要性は認められるものの、「ある程度必要」を中心とする分布であり、必要性は他と比べて相対的に低い。ただし「ぜひ必要」とする評価の増加も見られ、今後重要性が高まる可能性がある。

以上より、本プログラムの到達目標は、コミュニケーション能力および協働能力を基盤とし、実践的問題解決能力を中核とする構成となっており、社会的要求と整合した妥当なものと評価される。